これからの学校教育
基本構想検討委員会

令和３年１月２１日

松 原 市 教 職 員 課

令和３年１月21日（木）

１．　開会

○事務局　では、ただいまより始めさせていただきます。

本日は、ご多忙の中、第１回これからの学校教育基本構想検討委員会にご出席賜り、ありがとうございます。緊急事態宣言中ですが、感染症対策をきちんとした上で本委員会を開催させていただきます。少し寒いかもしれませんが、常時換気に努めますので、よろしくお願いいたします。

本日、司会をさせていただきます教職員課の岡山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この第１回検討委員会は、これからの学校教育基本構想検討委員会規則の第６条に基づき教育委員会が招集するものです。委員長選出後は、委員長が検討委員会を招集し、その議長となりますが、委員長を選出するまでは私たちが進めさせていただきます。

本日13名出席いただいておりますので、同規則第６条に基づき委員会は成立しております。

本日の傍聴人は、ゼロ人となりますのでお知らせいたします。

それでは、まず、開会にあたり松原市教育長、美濃亮よりご挨拶申し上げます。

（１）教育長挨拶

○教育長　失礼いたします。

こんばんは。教育長の美濃でございます。

まずは、このこれからの学校教育基本構想検討委員会の委員をお引き受けいただきましたこと及び緊急事態宣言が出ている中で今日のこの会議にご出席いただきましたことを心より感謝申し上げます。

昨年２月に答申を受けて、本来なら令和２年度の早い時期にこのようなことに取りかかるはずだったんですけれども、ご承知のとおり新型コロナウイルスの関係もあって会議もなかなか開きづらいというような状況がございまして、この時期にということになりました。

私自身は、こちらの松原市の教育長を拝命してちょうど１年半ぐらいになるんですけれども、この間、松原市をずっと見てきて感じているのは、地域の教育力というか、学校をしっかり支えてくださっているなということ、それか

ら本当につながりが深いなということを日々感じているところなんですけれども、これをさらにもう一歩前に進めていくためにも、このコミュニティ・スクールの導入というのが必要であると思いますし、意義深い取組みをやろうというのも、これも必然の流れなのかなというふうに感じております。そのためには、様々な課題もあろうかと思いますけれども、皆さんのアイデアをいただきまして、一つ一つクリアしていければと考えております。

本当にお忙しいところお集まりいただいて、会議にも出ていただくということで、ご面倒、ご負担をおかけすることになりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

（２）　委嘱状及び任命書の交付

次に、委嘱状につきましては、本来ならお一人お一人にお渡しすべきところではございますが、皆様の机上に置かせていただいております。これをもちまして委任状の交付とさせていただきます。内容に誤りがないかご確認をお願いできますでしょうか。

それでは、本検討委員会の委員のご紹介をさせていただきます。お名前をお呼びいたしますので、その場でご起立をお願いいたします。

（３）　委員紹介

大阪大学大学院人間科学研究科教授、志水宏吉様でございます。

滋賀大学教職大学院教授、大野裕己様でございます。

幼稚園代表、長野友香様でございます。

小学校長代表、山森篤様でございます。

中学校長代表、田中繁様でございます。

松原中学校区ＰＴＡ代表、藤野喜嗣様でございます。

松原第二中学校区ＰＴＡ代表、橋本宏美様でございます。

松原第三中学校区ＰＴＡ代表、石川結加様でございます。

松原第四中学校区ＰＴＡ代表、前田貴彦様でございます。

松原第五中学校区につきましては、辞退がありましたので、本日の参加はございません。

次に、松原第六中学校区ＰＴＡ代表、大島伸一郎様でございます。

松原第七中学校区ＰＴＡ代表、森田吉彦様でございます。

幼稚園ＰＴＡ代表、長谷川咲様でございます。

松原市地域教育協議会代表、前田正人様でございます。

以上、13名の方が委員でございます。よろしくお願いいたします。

（４）CSマイスターの紹介

次に、本日は文部科学省ＣＳマイスターの大谷裕美子様にお越しいただいております。大谷裕美子様には後ほど学習会をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（５）事務局の紹介

続きまして、事務局として出席しております職員を紹介いたします。

教育長の美濃亮でございます。

学校教育部長の横田雅昭でございます。

学校教育部次長の岡林美紀でございます。

教職員課長の幸隆之でございます。

地域教育課長の前崎哲でございます。

地域教育課主幹の小山栄治でございます。

最後に、私、教職員課長補佐の岡山祐美でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局　次に、案件に入ります前に本日配付の資料を確認させていただきます。

まず、資料１につきましては、本委員会の名簿になっております。続きまして、資料２になりますが、本委員会の規則になっております。資料３につきましては、会議の公開に関する指針となっております。資料４につきましては、本委員会の傍聴要領となっております。資料５につきましては、諮問書の写しになっております。資料６につきましては、スケジュールの案となっております。資料７につきましては、これからの松原市学校教育のあり方及び市立小中学校の適正規模についての基本的な考え方につきましての答申となります。資料８がこれからの学校と地域（パンフレット）になっております。

以上でございます。全てございますでしょうか。

それでは、議案１の委員長、副委員長の選出についてですが、これからの規則第５条の規定により、委員長は委員の互選により定めることとなっております。委員長につきましてはいかがでしょうか。

○委員　　失礼します。委員長の選出につきましては、教育に関してもとても豊富な学識経験もおありで、また本市のたくさんの学校で教育研究に関わってご指導いただいています志水委員を推薦したいと思っております。よろしくお願いします。

○事務局　ただいま委員長に志水委員が推薦されましたが、いかがでしょうか。

○各委員　異議なし。

○事務局　異議なしということですので、委員長は志水委員にご就任していただきます　それでは、ご就任につきましてご挨拶をお願いいたします。

○委員長　皆さん、改めまして、こんばんは。推薦していただいてやらせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

これからの学校教育基本構想検討委員会ということですが、前回の会議は、多くの方がこの場におられたと思うんですが、１年ぐらい前ですね。

○事務局　２月開催です。

○委員長　長い夏休みでした。というか、議長になりながら基本的な質問ですが、前期後期みたいな形で捉えたらいいですか、同じ委員会を。

○事務局　今回また新たな諮問を出させてもらいますので、これ、諮問が出て答申までの間が任期になりますので、今回また新たに諮問を出し直して、それについて考えていただくというところになります。

○委員長　前期とは、前期、今までとは別のものですか。名称は同じですね。

○事務局　前回の２月の答申を受けて、特にその中のコミュニティ・スクールについて諮問していきたいと考えております。

○委員長　皆さん、クリアでしょうか。

コロナになって、いつもよりは行動を控えめにしたりして何とかこうやって生き延びております。皆さんに再会できて本当にうれしいなと、委員会の方も含めて思っております。

今言っていただいたように、かなりブランクというか、中休みが入っていますけれども、この間議論したコミュニティ・スクールの在り方、いよいよ実現に向けていくということですので、今日、２月、３月とあると伺っております。ぜひ審議のほう積極的にご議論いただければなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　　ありがとうございました。

副委員長につきましては、本規則第５条の規定により、委員長が委員の中から指名することとなっております。委員長、いかがでしょうか。

○委員長　　私のほうから大野先生をご指名させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○各委員　　異議なし。

○事務局　　ただいま委員長より大野委員の指名がありましたので、副委員長には大野委員にご就任していただきます。ご挨拶のほうをお願いいたします。

○副委員長　　ご無沙汰しております。大野でございます。

今回、また新たに基本構想の検討委員会ということになりますが、やはり松原市の学校、それから地域がこれまで全国的な意味でもよい取組みをずっと推進されてきたということで、それがさらに形になっていくというところに同席させていただくことに私としても非常にうれしく思っております。大阪教育大学時代が長かったものですから、そのときより松原市さんに仲よくというか、よくしていただいて、そしてこの取組みが見れるということに幸せに思っております。ですので、力不足ですが、志水先生を助ける、そして皆様の議論に少しでもお役に立てるように努力したいです。どうかよろしくお願いいたします。

○事務局　　ありがとうございました。

では、委員長と副委員長が決定いたしましたので、まずは事務局からこれまでの経過とコミュニティ・スクールについてご説明いたします。

お席のほうで見にくい方はこちらの席に移っていただいて結構です。

○事務局　　資料７の前回の答申と資料８のこれからの学校と地域という文科省のコミュニティ・スクールの一番新しいパンフレットについて、プレゼンテーションで簡単に説明させていただきます。すみません、座らせていただきます。

まず、これからの学校教育基本構想検討委員会では、平成30年度から令和元年度にかけて12回の検討委員会を行い、これからの松原市の学校教育の在り方について検討してきました。今までの松原でどんな教育がされてきたかというところを振り返る中で、小中連携という名の下で小中学校９年

間を通したカリキュラムあるいは授業スタイル、評価基準を統一したり、決まりを統一したりして小中のなだらかな移行を図っていった。それから児童会生徒会交流会というのがあるんですけれども、そういうものを通しまして子どもたちが地域行事にボランティアとして参加するなど、地域に貢献しようとする態度が育まれてきました。

また、地域教育協議会を中心に中学校区フェスタを展開してきまして、それだけではなくて、校区の特色を生かしながらウォークラリーやミニ運動会、陶芸教室、校区クリーンキャンペーン、子育て講座等、地域の大人と子どもが協働して行う特色ある取組みをしてきました。

それで、これからの学校教育基本構想検討委員会の中で市民アンケートを行ない、市民が学校のことをどんなふうに見ているのか等についてを取りました。結果、小学校と中学校の連携という部分については市民の認知度は約１割程度、それでも学校の活動に積極的に参加したいとか、時間があれば参加したいというのを含めれば約４割の方が学校に何らかの形で関わりたいということが分かりました。ただやっぱり学校で何をしているかというところを知らない地域の方々が多いので、もっと見える化を図りながら地域住民が参加・協力しやすい仕組みが必要だというような意見が出されました。

そして２月に答申が出たんですが、答申の中のこれからの松原市の学校教育の在り方というところにつきましては、中学校区を単位としたコミュニティ・スクールの立上げ、それから中学校における小中一貫した９年間の教育の充実というところが示されました。この令和２年度のこれからの学校教育基本構想検討委員会では、中学校区を単位としたコミュニティ・スクールの立上げについてご意見をいただきたいと考えております。

詳しくは、諮問項目の中で述べさせていただきます。

それでは、次の資料８のほうなんですが、学校運営協議会制度、コミュニティ・スクールとはどういうものなのかというところですが、コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことをいいます。学校運営協議会とは、学校と地域住民や保護者等が学校運営の基本方針の承認や様々な課題の共有を図るとともに、学校運営への必要な支援等につ

いて協議する場です。

それから地域学校協働本部というのもありまして、これは地域と学校がパートナーとなり、地域全体で子どもたちの成長を考え、地域を創生する活動のことをいいます。その内容は、学校の授業終了後または休業日において学校・社会教育等施設で行う学習、その他の活動、ボランティア活動や社会奉仕体験活動、自然体験活動、その他の体験活動、社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して、学校・社会教育施設で行う教育活動、その他の活動を指します。コミュニティ・スクールと地域学校協働本部が一体に機能することで、目的ビジョンの共有を通じて学校と地域のさらなる連携、協働が推進されるなど、相乗効果が期待されるところです。

学校と地域がパートナーとなることによりまして、例えば近所に気がかりな子どもがいても、今の時代、その子に声をかけましたら不審者に捉えられる場合もありますね。だから気になってもなかなか声をかけにくい。でも学校と地域がパートナーとなって一緒にやっていたら、子どもの状況も分かっているので声をかけやすくなるというようなところが考えられます。

また、地域にはいろんな特技を持った人がいますし、いろんなものづくりを実際に仕事としている方もおられます。そういう人たちを学校に、そういう人たちもやっぱり子どもたちに何かしてあげたいという気持ちがあってもどういうふうに言うていったらいいのかというのがなかなか分からない場合もあります。これも学校と地域がパートナーとなることで、専門的な知識を有する人たちが子どもたちにいろんな学習をさせていただける機会につながるかなと考えております。

また、学校が保護者や地域住民の方々との要望の対応に追われてしまうこともありますが、日常的につながっておりますと、地域の協力の中で教職員が子どもと向き合う時間をつくることができるようになってくるかなと思っております。

そういうところで大事なのが地域学校教育活動推進員という方々で、この役割は必要不可欠になってくるかと思います。どういうものかといいますと、地域住民と学校との連絡調整を行うコーディネーターの役割を果たす

方のことです。主な役割としては、地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案、学校や地域住民、企業・団体等の関係者との連絡・調整、地域ボランティアの募集・確保などになってきます。

これまで地域と学校のつなぎ役というのは、よく教頭先生がやってこられたと思うんですが、教頭先生にいろんな仕事が増えると、本当に学校が回らなくなってしまうので、今回、コミュニティ・スクールをつくるということで地域と一緒にその子どもたちを育てるという意味で、地域からこの推進員が出ていただけたら非常にうれしいかなと考えております。以上です。

○事務局　プレゼンテーションは終わりましたので、席のほうへお戻りください。

それでは、議案２の諮問書の交付に移らせていただきます。

美濃教育長より志水委員長に対しまして諮問をお願いしたいと存じます。

なお、委員の皆様におかれましては、資料５の諮問書の写しをご覧ください。

○教育長　【諮問書】

松原市立小中学校における充実した学校教育の実現に資するため、これからの学校教育基本構想検討委員会規則第２条の規定に基づき下記の事項について諮問します。

１、諮問事項。中学校区を単位としたコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の立上げについて。

２、諮問理由。令和２年３月、本委員会においてこれからの松原市の学校教育の在り方については、以下の答申が出されました。

中学校区を単位としたコミュニティ・スクールの立上げ、中学校区における小中一貫した９年間の教育の充実。

この答申を受けて、本委員会において、中学校区を単位としたコミュニティ・スクールをどう立ち上げるかについて議論していただきたいと考えています。とりわけコミュニティ・スクールの形態、委員構成等、実施するに当たっての懸案事項について、いつどのように対応するのか、また、立上げまでのプロセスを具体的にするため諮問するものです。

どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長　ありがとうございます。確かに承ります。

○事務局　どうもありがとうございました。

この後の議事進行につきましては、志水委員長にお願いしたいと存じます。

よろしくお願いいたします。

○委員長　それでは、ここから私のほうで進めてまいりますのでよろしくお願いします。

ここからというのは、４以降ということですね。

議案というところの４番目になります。会議の公開・傍聴についてです。

これについて事務局から説明をお願いします。

○事務局　では、お手元の資料３、会議の公開に関する指針をご覧ください。

この指針に関しましては、本市の審議会の公開についての取扱いをお示ししているものです。指針の３で、審議会の会議は、条例及び規則で定めるものを除き公開するものとする。また、指針の４で、審議会の会議を非公開とするときは、審議会の会長が当該会議に諮って決定するものとすると定められております。この委員会につきましても、それに基づき原則公開となります。

本日の会議につきましても公開とし、委員会の開催を市役所の掲示板及び市ホームページにおいて周知し、希望者の傍聴を認めております。

○委員長　原則は公開となっております。まず、基本的にはそのような形にしたいと思いますが、プライバシーや配慮が必要な場合があると思います。その審議については非公開にする場合もあるということでご了解いただけるでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員　異議なし。

○委員長　そのような取り回しとさせていただきます。

○事務局　ご異議なしと確認いたしましたので、本検討委員会は原則公開で、必要がある場合のみ非公開という形で進めさせていただきます。

なお、原則公開ということですから、ご発言につきましては一定の配慮をお願いいたします。

続きまして、公開の手続と方法について説明いたします。

傍聴につきましては、資料４をご覧ください。

当委員会傍聴要領により、会議の傍聴手続、傍聴人の守るべき事項、傍聴人の退場手続を定めるものでございます。開催の告知につきましては、開催場

所に応じて傍聴人の定員を決めた後、事前に掲示板やホームページなどで会議の開催公告を行うことで周知を図ってまいりたいと考えております。

次に、議事録の作成についてです。

本会議におきましては、ボイスレコーダーで録音させていただき、１か月をめどに全文筆記で作成することを原則とさせていただきたいと考えております。全文筆記につきましては、特に重要な事項を扱う場合を除き、てにをはなど発言内容にそごが生じない範囲で修正及び簡略化させていただき、市役所の情報コーナー及びホームページに掲載したいと存じます。

なお、議事録につきましては、公表前に各委員にご一読いただいた後、ご承認いただき、委員長、委員の皆様、事務局の発言に区分してという形で公開させていただきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○委員長　ありがとうございました。

傍聴についてということと議事録の作成についてという２点あったと思います。これらについて何かご意見、ご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員　異議なし。

○委員長　そうしましたらご異議なしということで、これは提案させていただきます。

次の議題に入ります。学習会ということです。

○事務局　本日は、コミュニティ・スクールの導入及び実践に携わった実績を有する文部科学省ＣＳマイスターの大谷裕美子様にお越しいただいております。

大谷様は、現在、河内長野市美加の台中学校区ゆめ☆まなびネットで学習支援コーディネーター、また学校運営協議会副会長をされております。実際に学校運営協議会を立ち上げてこられた実践者からの視線でよかったことや課題についてお話しいただき、コミュニティ・スクール導入に向けて松原市の教育と重ね合わせながら聞いていただけたらと思います。

では、大谷先生、よろしくお願いいたします。

○ＣＳマイスター

よろしくお願いいたします。

そうしましたら、ちょっとだけ資料のほうを見ていただきながらお話を聞いていただけたらいいかなと思います。

文部科学省のＣＳマイスターを６年させていただいていまして、マイスターというのは何かといいますと、全国でコミュニティ・スクールを始めておられるところとか、進んでいるんだけれども、この次のステップはどういうふうにしたらいいかとか、アドバイスであったりとか講演をさせていただいて、よりコミュニティ・スクールを発展的に捉えていただけるようなお話をする。今年度からコンサルティングもさせていただくようになっています。松原市さんには去年コンサルティングで寄せていただいて、行政の方にお話しさせていただいたご縁も頂戴しています。

委員をよく存じ上げていまして、府のコーディネーター研修も一緒やったんですよね。なので、私もコーディネーターから始まっているんですけれども、現在は今ご紹介いただいた美加の台小学校、河内長野市は大阪府内で初めてコミュニティ・スクールを取り入れた市です。今はまだ小学校だけなんですけれども、来年度からですかね、中学校も導入してまいります。あと大阪府立富田林中学校・高等学校があるんですけれども、そこも３年前から学校運営協議会ができまして、そこでも副会長をさせていただいています。

富田林中学校でこの２月に文部科学省のコミュニティ・スクールのフォーラムがあるんですが、そこで発表するんですけれども、残念ながら本来は全国大会で栃木で発表やったんですけれども、このコロナでオンラインのこれからビデオを撮って流すというような形になると思うので、またご案内させていただきますので、ぜひ参考になるかと思いますのでご覧いただいたらと思います。

では、先ほどコミュニティ・スクールのことをとても簡潔にお話ししていただいたんですけれども、私が進めている中で一番よく分かるよと、人気のやつをお伝えしたいと思いますが、自転車を想像していただきたいと思います。先ほどの話ではややこしいなというのがコミュニティ・スクールと地域学校協働活動、学校運営協議会、なんか分からん名前がいっぱい出てきていますよね。それを一つにまとめてお話しさせていただきます。

この自転車、コミュニティ・スクールは学校運営協議会を設置した学校のこと

をコミュニティ・スクールというんですけれども、今、学校運営協議会と地域学校協働活動の両輪で進めてまいります。この自転車の前輪に当たるところが学校運営協議会になります。ここでは運営協議会の委員さんたち、それと学校の先生方と一緒に地域と学校が同じレベルで一緒に意思決定を、どんな子に育てたいか、今年度はどういうことを学校の目標にしていこうかということを話合いで、それぞれの個人の意見が際立つんではなくて、出てきた意見を合議体で決めるのが学校運営協議会になってまいります。

そして後輪の部分は、地域学校協働活動、松原市さんでは、今、地域教育協議会がしっかりできています。大阪府の中でも飛び抜けてできていると思うんですけれども、それらの活動なんかがこの自転車の後輪になります。各団体さんの活動も、先ほどおっしゃっていた放課後の活動であったり、土曜、日曜とかに地域の方が先生になってくれて子どもたちの経験値を増やすような活動とかあります。また、個人でいろんなことができる方、地域にはたくさんの方がいらっしゃいます。そういう方たちの活動を地域学校協働活動といいまして行動機関、前輪は意思を決定する、それに対しての行動を共にしてくださる方たち、今、地域で活躍してくださる方たちが行動してくださる、自転車の後輪が動かないと前輪は動きませんから、この形になります。

そしてこのペダルの部分がコーディネーター、文科省では推進員というふうに呼んでおりますが、コーディネーターさん、前輪と後輪をつなぐコーディネーターさんは学校運営協議会の委員として入っていただき、意思決定したことを後ろの後輪の地域の皆さんに伝えて、この活動をみんなで今年は学校はこっちの方向へ行くので、地域の方のこういう力が必要なんです、ぜひ力を貸してください、一緒に活動していきましょうということでお誘いをして、お手伝いではなくて協働をしていく人たちをつなぐのがコーディネーターさんです。なので、このコーディネーターさん、推進員さんは地域学校協働活動のことをよく知った方がなっていただく。人とのつながりをたくさん持っておられる方になっていただくことが大事です。

意思決定した学校運営協議会の方は話し合いだけでいいのか、評議員さんみたいにこういう意見がありますよというふうに言うだけでいいのか、ではないんですね。言い出しっぺは一緒に活動していきましょう、言った限りは後輪

の方たちと一緒に汗を流してくれる方を学校運営協議会の委員さんには選出していただきたいと思います。そうしないと、なんちゃってコミュニティ・スクールになっちゃいます。学校運営協議会を設置しただけのただの名前だけの学校運営協議会、それは学校にとったら本当にしんどいだけの学校運営協議会になってしまいますので、せっかく仕組みとしてつくれるんですから、活動できる、子どもたちのためになるものとして進めていきたいと思いますね。

そしてこのサドルに座っているのはそれぞれの中学校区の子どもたちになります。そしてハンドルとブレーキを持っているのが校長先生です。学校運営協議会の中で話がどんどん進んでいくけれども、決めたこと、みんなで合議体で決まったことがちょっとぶれてきたりすることもあります。そんなときにハンドルを持って方向をちゃんとただすのが校長先生です。また、後輪のほうが地域の方たちが、よしやったんで、頑張るでと力入れ過ぎてスピードアップしてきたときにブレーキをうまく止めるのが校長先生、学校の責任者、校長先生はそういうお役もしていただいて、そしてビジョンや目的に向かってこの自転車を子どもたちを乗せて、時には子どもたちもお客さんではなくて一緒に活動する動き手になりますね。

そして教育委員会、教育委員会はアシスト機能になってきます。自転車も坂道を上るのに今アシスト機能がつくと楽に上がれますよね。そこの部分を担うのが教育委員会さんです。財政支援であったり、研修会を開くであったり、制度設計など、いろんな形でそれぞれの学校でコミュニティ・スクールは動いていきますが、後方支援といいますか、安心して進められるように話、活動を支えてくれるのが教育委員会さんになってきます。コミュニティ・スクールというのは一つの形が決まっていてそれをみんながやればいいんかではなくて、それぞれの学校で特色もあれば、違いもあれば、地域性もあると、同じ松原市でもやっぱり学校によって、校区によっていろんな違い、特色があると思うので、それを生かしていくためにそれぞれに学校運営協議会がつくられて、学校と一緒に運営について話し合うという仕組みになっています。あくまで仕組みなので、それをいかに活用していくかは運営協議会の委員さんたちの力にかかってくるということになります。

この形が一番よく分かっていただけて、いろんなところで使ってもらえているかなと思っています。皆様も先進校を視察に行かれていろいろ見てきてられると思うんですが、行くところ行くところ特徴があって、松原と一緒じゃないよなというご意見もあったかなとは思うんですが、それでいいんです。そこの地域でそこはそのような動かし方が一番子どもたちの未来にとって、子どもたちの学びにとっていい形がきっと行われているんだと思います。

これからやっていかないといけないこととして、条例の改正とか、教育委員会にしたら報酬というのが出ます。特別職という役割に学校運営協議会の委員さんはなりますので、そういうものも決めていかないといけないので、本会議とかでも決めていかないといけないと思います。そして規則とか規約の作成も必要になってまいります。そういうところを進めていただきましょう。

それと大切なものとして周知することです。学校運営協議会、コミュニティ・スクールやりますよと言っても一体何をやるのか分からへん。特に校長先生にいかに分かっていただくか、今見ていただいたようにハンドル、ブレーキを持ってくださるのは校長先生です。校長先生の本気度で学校の取り組み方は変わってきます。松原市は中学校区で取り組まれるということですので、中学校に大体小学校が２校あるのかしら、その形となりますと、１つの学校運営協議会で小中のことを一緒に考えなあかん、３校のことを考えなあかんことになりますよね。そのときにどうしたらいいかというと、一つの学校運営協議会なんだけれども、中で部会に分けるということを取り組んでいるところもあります。これは何々小学校部会、何々小学校部会、何々中学校部会というような形で、みんなで集まるけれども、お部屋の３か所に分かれて、会議の途中は部会に分かれてそこの専門的なお話を進めていくというような形もあるかなと思いますね。

地域の方というのは一緒なので、小学校でも中学校でも、大体中学校区は一緒ですよね。大体力を貸してくださる人というのは一緒なので、その人たちは小学校の間から見ているからこそ中学校になっても子どもに声をかけることもできる利点はあると思うので、中学校区というのもとてもいいのかなと思っています。

学習指導要領とかも変わってきているので、そこへの協力ということも必要や

と思うんですけれども、今まで地域の方は学校のお手伝いでいっぱい協力してくれていると思うんですが、コミュニティ・スクールになりますとお手伝いではなくなるんですね。支援から、大阪府も取り組みました学校支援地域本部事業、私もそれをやっていました。それが支援から今度は協働、一緒にやっていきましょう、一緒に参画していきましょうという意識の変化をもたらさないといけないので、先生方にも、そして地域の方にも、ＰＴＡさんにも意識改革が必要です。ただ新しいものがやってきて今までのものが要らないのかいうたらそうじゃないんです。今までのものがあったからこそ新しいものを増やしていけると、ステップアップしているんやというイメージを持っていただきたいと思います。

立場が異なる人たちが同じ目的、ビジョン、さっきの自転車の方向に向かって対等の立場で共に活動してまいります。お手伝いではなくて、自分自身の活動の一部やでと考えてもらう。言われたから来てんけどではなくて、自主的に、自発的に私もこれやってみたい、子どもたちのためになるんかな、これは何年後の子どもたちの役に立つんかなというような意識を持ってもらう。他人事ではなく当事者意識を持って、負担感、特に学校の職員の先生方に負担感という言葉が出てくる可能性があるんですが、それは負担感ではなくて自己有用感が生まれたり、地域の人も生きがいにつながるという。学校というところはなかなか行きづらいところです。でもこのコミュニティ・スクールという仕組みを使うと地域の方が学校への足を向ける頻度が高まってくる、学校の中で出会った大人の人は、子どもにとったら安心な人なんです。今、地域ではなかなか知らんおっちゃんに挨拶したらあかんで、知らんおばちゃんに挨拶したらあかんでというような教育に、大阪は特に教育大の事件があってから、せっかくオープンになりかけていたのがちょっとクローズしてしまっていたり、家庭で子どもを守らなあかんというふうになってきたりしているから変わってきているんですけれども、でも学校の中で自分たちの活動に一緒に来てくれている地域のおっちゃん、おばちゃんの顔を知ることによって、子どもは学校から帰って地域で見ても、あのおばちゃん学校に来てくれていたわ、ミシンの授業をやっているときに一緒に来てくれていたわということで、子どもは知っているおばちゃんやから挨拶する、それで挨拶運動

とか、子どもの挨拶の頻度も高まっていき、大人が声かけんでも、おばちゃん、こんにちはというふうに挨拶の幅も広がっていく。そういうことになるので、地域の人がどんどん学校に入っていく。今は、地域の人はそれぞれの地域で子どもを見守っていたり、子どもの体験活動を進めていただいていますが、コミュニティ・スクールになることで地域の人たちが学校へ入ってくる機会が増えてきます。

それは先生として入ってくるだけではなくて、子どもたちを支えるとか、休み時間に子どもたちとの関わりを持ってくださるとか、そういう形で入ってきます。ただ先生の働き方改革のためのものではないと思っています。先生を楽にさせるために地域の人が一生懸命無償で行くというのはおかしな話でしょう。地域の人たちもいてよかった、この子らの知り合いになれてよかった、笑顔に会えたというその満足ができるのと、それで地域の人が入ることによって先生方の仕事というか、休み時間、子どもをずっと見とかなあかんかったのが、休み時間に地域の人が入ってくれることによって先生が丸つけに時間を費やすことができて時間の余裕ができると。それは楽にしているんじゃなくて、先生が子どもに、さっきおっしゃっていたと思うんです。関わる時間が増えるわけですよね。子どもにとってもプラスになる。先でも先生にとっても余裕ができるから気持ちも楽になるというような形を想像してもらったらいいのかなと思います。

いろんな取組みをやっているので、またの機会に聞いてもらったらいいんですが、ここは中学校区なので、中学校でどんなことができるかというと、つい18日の月曜日かな、やりました。おじさん面接官、地域の人に子どもたちの受験するときの面接官になってもらうんですね。地域のおじちゃんがやってくださいます。学校運営協議会に入ってはる方も入ってくださって、ふだんＴシャツとか着てラフな格好をしているおじちゃんがスーツ着て、髪の毛をピシッと分けてちょっと怖い顔して座ってくれて面接してくれる。普通の学校の先生が、小学校の先生とか寄ってたかってやってくれるけれども、やっぱり子どもは全然知らんおっちゃんとか、ふだん違うおっちゃんが面接することで緊張感も出てきますし、充実したものになって、最初は私学の面接のある学校の子どもだけやっていたんですけれども、学校からの要望で全員に

やらせたいということで、今は中３生全員が受けてくれるので、５人とか６人とかの地域のおじちゃん、おばちゃんも入ることがあるんですけれども、入ってくださっています。

ここで気をつけなあかんのは、子どもの個人情報が丸出しになるんですね。どこの学校を受けるが分かってしまうので、そこもちゃんと守秘義務といいますか、理解してくれてほかへ漏らさないというような約束事を守ってくれる人に入っていただく。それはどういう人なのかということを見つけるのがコーディネーター、推進員の役目、コーディネーター、推進員さんは地域の人をたくさん知っていることによって、この人は安全やでとか、ここの部分は大丈夫やからこっち任せましょうという適材適所をちゃんと分けられる人が推進員さんになることをお勧めします。

松原市でのコミュニティ・スクールの導入については、今までの取組みをステップアップさせていくというふうな感覚から始めていただいたらいいと思います。優れた取組みをしているところはたくさんあるので、ほかのところの視察に行かれたように、ご覧になったり、今は河内長野を始めたときはどこも大阪府ではモデルにするところがなかったので本当に手探りでした。今振り返れば。でも松原市さんは今からやから、成功しているところをいっぱい見れると思いますし、それで松原にちょうど合うものをまたオリジナルで考えていかれるといいと思うので、たくさんの取組みをしてきたことを生かしていただきたい。今までやってきたことをほるんではなくて、それをより豊かにして子どもたちのことを考えていただいたらと思います。

今の小学生、中学生の子どもは将来、10年、20年たったら地域の人になるわけじゃないですか。ＰＴＡさんはＰＴＡさんやけど、地域の方ですよね、自治会に入ってはるし、地域の方。その地域の方々、そしてこれから地域の人になる子どもたちをみんなで一緒に育てましょうというのがコミュニティ・スクールの柱の部分になっています。

立上げのときに一番ポイントとなるのは、さっきの前輪のところの学校運営協議会の委員さんの選出です。やっぱり人です。どうしても最初、あて職、どこどこの代表さん、どこどこの会長さん、会長さんが決して悪いわけじゃないですよ。全部充て職で学校のことにあまり興味ない、自分のところの取組

みはすごい一生懸命やってくれる会長さんやけど、あまり学校のこと興味ないな、子どもの興味ないなという人もいらっしゃるわけで、それにまたお忙し過ぎるという方もいらっしゃったりして、会議への参加率が低いとかとなってくると、やっぱり合議体で話し合って、そして活動にまで結びつけないといけないのでその辺は選ぶ。お人を選んでからその人がここの団体に関わってはりますよねと、やっぱり子どもたちのことを思ってくれている人とかいって上がってくる人というのは、何らかの組織に関わってくださったり、今までに何らかの活動をされてくださったりする人が多いかと思いますので、あて職という役割で入ってこないようにしてもらったほうがいいかなというのと、ただ１年、２年は全然大丈夫なんですが、ずっと固定化されていくことによって内容の形骸化が起こってくるところも結構あるんですね。なので、校長先生が人を入れ替えるというのは本当に難しい。地域の人をあなたは来年度は要らないですよというのは本当に難しいし、言われたほうにしたら、ええ、せっかく今まで頑張ったのにと思うという人間関係的なものも出てくると思うので、入れ替え、松原市さんは何人の委員になるかはまだこれからですよね。その人数が仮に中学校区やから15、6人になるんかな、15人としたら、最初から15人満杯で入れんでも、13人とか、14人とかにしといて、活動を進めている間にこういう方もいらっしゃるからちょうどここ専門性持ってはるし、入っていただきましょうとかいうことで、後で追加することも可能です。最初から満杯にせんでもいいし、違う年になったときに、もっと専門性、違う部分を伸ばしていこうと、子どもたちを伸ばしていこうと思うたら、またそこを入れ替えるというようなことを一人ずつでも、ちょっとずつ入れ替え制もあるんやなというようなことを委員さんの中に浸透させておくということも先生方の、校長先生のご苦労を減らそうかなと思うのと、運営協議会も風通しをよくすることも大事かなとも思います。私ずっと入っているんですけれども、ずっといとかな動けへん人もいてはるので、そういうのもありで、全員が同じまま５年も10年もとなるとちょっとしんどくなってくるのかなとは思っています。

それからコーディネーターを選ぶときなんですが、私も大阪府のコーディネーター養成講座を受けましたが、その時代の人は結構高齢化してはる方もいら

っしゃるので、そこにあまり固執せんでいいと思います。コーディネーター、府のコーディネーターを受けたからこの人を入れなあかんとか、そういうことは別に考えんでもいいと思います。お勉強はみんな一生懸命されたので大切な方ではあるんですが、コーディネーターにせんでも後ろの車輪で一緒に働いてくれる方、活動してくれる方という位置づけで入ってもらうことも、気持ちをお持ちやったらね。ただコーディネーターさんというのはやっぱり学校のことも分かって、ちょっと分かって、地域のことをよく分かっている人というのが選ぶのに大切かなと思います。

退職校長先生とか、退職された教員の先生方というのも全然ありやと思うんですが、地域のことをどれぐらい知ってはるかというところが大事です。いろいろ関わらせてもらっている学校で、校長先生で去年までいてた校長先生で、その方が運営協議会の委員さんになるねんという話を聞きました。その校長先生は地元やったんです。自分の地元の校長先生をされていたので、もう地域の方のことも何でも知っている、その人の子どものことまで知っているみたいな方で、そういう人やったら力にもなっていただけるし、あの校長先生が頼んだら嫌と言われへんでみたいな関係性もあるみたいなことを教えてくださったので、校長先生や教職員の先生でも地域に、どれぐらい地域のことをご存じなのか、関わられているかはポイントになってくるかなと思います。うちも最初入ってくださった委員さんで校長先生がいらしたんですけれども、ほかの学校の校長先生だったので、地元のこと、それもまだ引っ越ししてきて間がなかったので、本当に地元のことがご存じなかったので、俺分からへんわ、ごめんなと、ずっとごめんなと言うてはって申し訳ないぐらいやったんです。そういうこともご本人もつらいと思うので考えてみてはいかがでしょうかと。

それから組織の在り方としたら、最初からこんなことをやろうと別に大きいことを考えんでいいと思うんですね。持続可能な取組みということで、細く長くやっていくことによって子どもは変化していくし、変容が見えてきますので、もし学校がすごい荒れていて、これはどうしても早いうちに対処せなあかんねんというんやったら、一緒にみんなで考えてという、即効性のあるものをみんなで考えていくということも一つですけれども、欲張らんでいいと

思うんですね。何か一つできたらいいよね、みんなが成功体験を重ねる、子どもも、大人も成功体験です。先生方ももちろんです。成功体験を重ねるのが大事かなと、小さな成功体験ですね。

あとモデル校、河内長野は最初は何も分からへんから、最初パイロット校があって、モデル校があって、ほかの十何校が一斉にというような形になりました。松原市さんはモデル校なしで全校一斉ということ、校区一斉ということを伺っていますが、もう後輪の部分ができているので全然大丈夫やと思うんです。あとは校長先生の意識をいかに、思いをいかにゲットするかです。

最後に、研修を重ねていただきたいと思います。その研修の対象は、校長先生は校長会とかでお話をしっかりしていただくんですが、教頭先生、管理職の先生向け、それから行政担当の方に対する研修会、行政担当さんでも学校教育と、ここは社会教育と分かれているので、社会教育とが連携できるような研修会、それからあと先生方、教職員の先生方、職員室の先生方が結構ほっとかれてしまうんですね。管理職の先生が分かっているからということで、運営協議会でこういうのが決定しましたので、こういうことを進めていきたいと思いますと職員会議で初めて言われて、教職員の先生方はどう思われますか。皆さん先生やったらどう思いますか。またトップダウンで言うてきて仕事を増やされたとしか取られへん。なので、先生方にも内容を分かっていただく。

一つの方法としてやっているのは、年間の運営協議会のどこでもいいので１回は先生方に出てもらう。職員室の先生方は委員ではないんですが、オブザーバー的な感じやけど、意見も言うてもいいということで参加してもらっているんです、毎年。全員が毎年１回は運営協議会に参加する。２回出た人は、２回出てもいいんです。何回出てもいいんですけれども、そうすることによって地域の人の誰がどんなことを言うているかとか、どういう人が関わっているかも分かるし、運営協議会というのは一体何なんということも肌で感じてくれるし、自分が提案したいことをそこで言うてもらってもいいので、それがまた実現できる。それが自分だけの授業ではなくて、地域の方を絡めた授業として授業自体をレベルアップできる。自分だけではできなかったことを子どもに提示できるという体験、さっき言いました小さな成功体験もして

もらったらできるので、そういう工夫というのも必要かと思います。

それから、あとＰＴＡさん、皆さんのようにＰＴＡさんとか、あと地域の住民、地域の方、地域で今活動している方、それ以外の方も含めて地域の方に学校に、アンケートでありましたよね、学校に興味のある方たちがいっぱいいてるというのがありましたが、その地域の方たちに対するコミュニティ・スクールというのは何ぞやというお話の研修会、それから準備委員会というのが進むと思うんですが、その人たちへの研修会、学校運営協議会の委員になられたら、市として委員さんに向ける研修会は絶対必要です。あとは各中学校区ごとで事情が違う、特色が違うので、今後、研修会を進めていくというのも必要になってくるのかなと思います。

私が時間を計ってなかってごめんなさい。もう終わりぐらいですよね。こんな感じでコミュニティ・スクールというのは子どもたちのためになりながら、地域のためにもなっています。学校の先生に地域のためのコミュニティ・スクールやねん、地域に貢献せなあかんねんと言うたら絶対に受け入れてもらえないので、そうではない、将来的にはそうなるというような位置づけでお話しされるのがいいのかなと思います。

以上です。すみません、ありがとうございました。（拍手）

○委員長　それでは、今のお話についてご質問ありましたら、どなたでも結構ですけれども、いかがですか。はい、どうぞ。

○委員　自転車の例がすごく分かりやすかったんですけれども、進む方向、目的とビジョンというふうに書いてあったんですけれども、目的とビジョンというのは、それぞれの学校区で設定するものなんですか。

○ＣＳマイスター　学校で年間の教育方針的なものだったりとか、大きいものとしてあるんですけれども、今年は子どもたちにプログラミングをぜひ体験させてあげたいとか、そういう細かいところから取り組むことも全然大丈夫で、指導要領に基づいたもので話し合いが出てくると思いますし、大きな部分で思いやりを大切にとか、学校の中で上がってきていると思うので、それのどこをやるか、それのどこを地域の人が関わるかとかという役割分担ですね。学校だけでやっていたことを地域の人やからできることは絶対あるんですよ。そこを今学校が全部担ってくれてはって、だからこそ先生が本当にお忙しくなっ

ているので、地域と分担できるものは何かなというのを運営協議会で話し合っていくというのが一つになってきます。

○委員　そこの設定はどこでするんですか。そのビジョンの設定というか、学校から上がってくるというお話もあるんですけれども、具体的にはそれはどこかで決めるわけですよね、このビジョンで行こうとか、これを目的としようという。

○ＣＳマイスター　まず校長先生が出してくれはるんです。

○委員　校長先生がですね、分かりました。

○ＣＳマイスター　まず校長先生が提案してくださって、はい、そうです。それを膨らますにはどうしようかみたいな意見が地域の、やっぱり専門のお話がないと地域の人がやりたいやりたいと言うたってできない、できるものでは、学校教育はそうではないので。校長先生からのご提案を受けてのことになります。

○委員　研修の必要性を訴えてはりましたけれども、研修会の講師は誰がするんですか。

○ＣＳマイスター　コミュニティ・スクールのことをよく分かった人が、業者さんがやってもいいし、文科省から私たちみたいなのを呼んでいただいても、誰を呼んでいただいてもいいし、あと実践でやっておられる学校の校長先生を呼ばれて、そこの学校の取組みとかの話を聞かれるところもあります。

○委員　分かりました。ありがとうございます。

○ＣＳマイスター　あと、進むようになったらそれぞれが実践報告的な、学校同士で、中学校区７でしたっけ。７中学校区で今年はこんな取組みができたとか、こんな話合いができたをみんなで報告会をすることもありやと思うんです。それは報告会することで、報告する人は自分たちのやったことを振り返るので、そこにまた学びが出てきたり、ＰＤＣＡサイクルと一緒で、また新たに課題は何かなというのを見つけたりとかしていくことになると思うから、ちょっと進んだらそういう会も必要になるかなと思います。

○委員長　まだいいですか。

河内長野市は学校ごとでコミュニティ・スクールを導入しているのですか。

○ＣＳマイスター　小学校です。

○委員長　ですね。中学校は間もなく。

○ＣＳマイスター　来年です、はい。

○委員長　自転車モデルは面白かったんですが、前輪が学校運営協議会ですよね。その

学校規模にもよるかもしらんけれども、大体何名ぐらいでどんな方が出ておられますか。

○ＣＳマイスター　委員ですか。

○委員長　　はい。

○ＣＳマイスター　それは統一されていて、学校の規模が大きかろうが、小さかろうが10人、地域から10人です。学校からは５人、15人になります。

○委員長　　それは河内長野方式みたいなものですかね。

私、根本的な疑問というか、この場では一度お話しした記憶があるんですけれども、コミュニティ・スクール、文科省が言い出してまだ初期の段階で、多分10年ちょいぐらい前になると思うんですけれども、あるご縁ができた東京の校長先生に誘われて……。ある小学校の学校運営協議会委員というんかな、学識者ということで数年間やらせていただいたことがあったんです。それは東京の特徴と思うけれども、学校運営に非常に積極的に関わるというスタンスで委員さん６人ぐらいでしたけれども、ご存じかどうか、もう変わっていると思うけれども、要するにその委員さんの意見が校長先生、来年できるかどうかを左右するということがありました。僕はいかがなものかなと、大阪ではなじまんなと思いながら黙って参加していたんですけれども、学校運営協議会というのはそもそも学校教育のいろんな教育面に対して議論する場やと思うんですけれども、今日お話を聞いたのは、その中の地域との連携とか、地域活動というお話やったと思うんです。すなわち学校運営協議会を年に何回かやると思うんですけれども、その主な議題は地域との連携にあるというふうに理解していいですか。

○ＣＳマイスター　そうですね。はい。それが多いです。今、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進というのを去年度から文科省が言い出していまして、地域とのつながりで自転車のような形、学校のいろんな課題解決ということが一番の主にはなるんですけれども、全てをさらけ出すかというたら、学校はなかなか全てはさらけ出してくれないんですね。あと地域の方が全てを聞いて何か解決策を見つけられるかいうたら、やっぱり限度があるのが現状です。なので、できることをみんなでやりましょうというような形と、これから始めていくに当たっては、こういう緩やかな入り方をしていくことによっ

て人間関係もできてくるので、より深いところにはその後で入っていきましょうというふうな形にはなっています。

うちの運営協議会のほうには、パイロット校でしていたときの校長先生がちょうど地域の方なので、入ってくださっているので、学校の私たち地域の者が聞いても分かりにくいかなというようなところは、運営協議会の会長が学校へのアドバイスというか、こういう進め方がええんちゃうかというお話を校長先生や学校とお話しされて、その中の一部で地域があとを支えるというか、支援できるものが何かというのをくださって、そこをまた運営協議会で話すというような形を今取っています。

○委員長　なるほど、分かりました。ありがとうございます。

その他ありませんか。

○副委員長　今の委員長のお話のつながりでお伺いしていたほうがいいのかなと、参加のことがありましたが、あと今日、話題の中でまだ入っていなかったかなと思ったのが学校評価のことですかね。今まであれば学校評議員の方、そういった方が学校評価の、学校関係者評価委員会の委員としてまた評価するといったこともあったと思うんですが、コミュニティ・スクールの場合にはそのあたりどうなるかというところを少しお話しいただけるといいかと思って。

○ＣＳマイスター　年度の終わりに、ちょうど２月、３月ぐらいの学校運営協議会の中でやはり学校評価はしています。それぞれアンケートで記入して提出すると、名前を書かずに提出するというような形を河内長野は取っていますけれども、それをやっています。富田林のほうもやっていますね、府立などでやっています。年度の終わりに地域との関係はどうだったかとか、どういう取組みができたかというのを自分たちも振り返りながら学校の運営についての個々の評価を受けるということはやっております。

○副委員長　連携協働活動が盛んになってきて、お互いが汗を流す関係でやっていって、またそこで評価をやっていくことでよりよいものにしていくみたいなそんな感じになるんでしょうか。

○ＣＳマイスター　そうですね。また見えてなかったものが見えてくるとか、そうですね。評価した限りはそれを改善できる手だてを自分たちで見つけなければならないねというのが学校運営協議会という位置づけになっている感じです。

○副委員長　　ありがとうございます。

○委員長　　よろしいでしょうか。

一応ここで区切りとさせていただきたいと思います。

今日は、大谷様、どうも貴重なお話、ありがとうございました。（拍手）

じゃ、元の位置に戻っていただいて、あとは意見交換というコマが設けられております。

８時半ぐらいをめどに閉じたいと思いますけれども、最後に、今日冒頭で委員会のほうからありましたプレゼンテーション、諮問書、今のマイスターさんのお話を聞いて、松原市でコミュニティ・スクールを立ち上げるということに向けて課題になっていきそうなことがこんなんあるなとか、こういう点は大事やろうというようなことを最後に、フランクに出し合っていただいてという時間にしたいと思います。せっかくですから、お１人１発言でどうでしょうか。順番は自由で、早く終えたい人は先に手を挙げていただいたらと思います。どんな事柄でも結構です。いかがでしょうか。

○委員　　今お話を聞いていた中で、役割的なものというとＰＴＡの活動と重なってくる部分が結構あるのかなと思うんですけれども、そういう意味で学校との関係性とかが、今まで頑張ってきてくださったＰＴＡの役員さんとかがお仕事がなくなってしまう、そういう……。

○委員長　　取ってしまうということですか。

○委員　　うん。どうやって役割分担をしていくのか、河内長野さんとかだったらどういう関係性に変わっていったのかとか、その後……。

○委員長　　何かありますか、ＰＴＡ活動。

○ＣＳマイスター　ＰＴＡとの関係性ですね。

○委員長　　そうです。ＰＴＡの活動と今おっしゃった地域活動との関係。

○ＣＳマイスター　いろんなパターンがあるんですけれども、私たちが考えているのは、ＰＴＡさんの活動に負担をかけてはいけないので、組織としたらＰＴＡからお１人は学校運営協議会に入っていただいています。ですので、そこは毎年、会長さんとか副会長さんが出てくれるんですけれども、変わっていかれる部分ではありますね。ＰＴＡさんはＰＴＡ活動をやっぱり充実させてほしいなというのと、負担感がほかに、コミュニティ・スクールにも行

かなあかんからＰＴＡの役員なんかやりたくないという人がこれで増えたら何をやっていることか分からないので、ＰＴＡさんに関しては、何か取組みをするときに子どもたちを連れて一緒に来てねとか、フェスタがあるから子どもたちを誘って、お母さんも一緒に家族で来てねとかというような動員の部分で協力してもらえるようにと、あと会議に出てくださった会長さんとかは、ＰＴＡの役員会にコミュニティ・スクールでこういう今話合いがなされていて、子どもたちの教育に地域のこういう方たちが入ってということをＰＴＡの中に広めていただくということが一番大切なことかなと思っています。

その中でまだ余力があるＰＴＡさんたちは、ＰＴＡやから入るんではなくて、個人として何か協力してもいいよという人たちをすくい上げるというか、来てくださる方がいらしたらという、そういう募集のかけ方をやって取組みに参加していただいたり、サポート役で入っていただいたりとかいうようなことで今はうまくいっていると思っているんですけれども、負担をかけたらあかんなと思うのと、私、ＰＴＡをやっていたんですけれども、ＰＴＡ活動は社会教育の第一歩やと思っていて、そこでつまずかれるとこの先ずっと何もやってもらわれへんとなっちゃうので、ＰＴＡは楽しいなと思ってもらえるもので置いておきたいなと思うので、それを無理やりコミュニティ・スクールに親がせんでどうするねんみたいな、子どものことを地域がこんなに考えてんのに親は何やってねん的な意識を地域が持つことはよくないと思っているので、動員のときに親子で来てねとか、一緒に楽しんでねというポジションでいてもらえるような今は取り組み方をしています。

○委員長　ありがとうございました。

○委員　今まで、勉強をしてきて、松原市はある程度できている部分もあったりして、そこにコミュニティ・スクールという考え方を、制度を後からはめ込むことで逆におかしくなったらあかんなというふうにすごく思ったんですよ。これは多分これから皆さんといろいろお話をしていきながら、今ある仕組みをよりいいものにしていくという考え方で、逆にそれを損なうようなことになったらあかんなというふうにすごく思ったんです。感想みたい

な話になりましたけれども、それはすごく思いました。私からは以上です。

○委員　まず思ったのは、この間に入るコーディネーターさんの人選がどうなるのか、うちの校区はどうなるのかなというのはすごい思いましたね。難しいです。すごい難しい問題とも思いました。

あとちょっとご質問というか、学校運営協議会は先生の人事権はもちろんないんですけれども、意見することはたしかできたかなと思ったんですけれども、そのことで先生方からあまりよく思われないようなことというのはないのかなとちょっと心配なんです。そういう意味でも先生にも入ってほしいというのはあったと思うんですけれども、そういう点は河内長野のほうとかどうしているのですか。

○ＣＳマイスター　最初の頃は委員の先生しか入っていなかったので、その先生方に託していたんですね。職員室にちゃんと情報を持っていってねと託していたんですが、校長先生、教頭先生、主任の先生、あと職員の先生がということで５人入ってもらっていたんですけれども、なかなか目の前にしないと言葉だけでは伝わらないし、職員朝礼とかで校長先生、教頭先生が報告してくださるとトップダウンになってしまうという捉え方があるので、なかなか難しいのは現状です。でも顔が見える関係になることで、ふだんよう来てはる人やな、あれは運営委員さんやなとかなったら立ち話も増えてきたりして、先生方もＰＴＡよりはよう老けているやつが来ているなぐらいに最初は思っていたと思うんですけれども、それが立ち話をしてくれるようになったり、挨拶の感じが変わったりとかなってくることで、委員会に出ていなくてもこんなことを今考えてんねんけれども、これは地域の方に頼めるかなということをつぶやいてくれたりする機会も出てくることもあるので、ちょっと会に、そういうところは少ないんですけれども、まだ。いてもらうほうが、ちょっとずつでも入ってもらえる仕組みを、それは校長先生のお力でできるみたいなので、そういうのをちょっとトライしてみることは結構近道で、先生も成功体験を重ねてもらえて、現場の先生同士が学校運営協議会はこんなことをやってんねんを広げてくださると、先生同士の中で、これを言うたらいけるかもなとかというような雑談の中に入っていくことがすごい大事やと思います。

○委員　　この今のコミュニティ・スクールのお話を聞いていて、今、学校運営協議会とか、地域学校協働本部とかという形というのは、もう既に地域協でほとんどやっている形なのかなとは思うんですよね。それで、そこからなんですね。もしこういう形として今はそうなってないけれども、こういう形としてきちっとやるというふうになるのは多分すぐいけるんじゃないかなというふうには思うんですけれども、その中で結局メリットもあると思うけれども、多分デメリットもあるんじゃないかなと思うので、どういうデメリットが出てくるのかというのがこれからの課題になるかなと思うんですけれども、なので、我々、松原としては多分この形はすぐいける、地域協で多分やってくれている。すぐやろうと思えばすぐできるなというふうには思うので、どういうやられているところで実際にあったデメリットのところをいろいろまた教えていただければ、それにまた対応していけるかなと、結構簡単にできる……。感想で。

○ＣＳマイスター　そうそうそう、学校によっていろいろなデメリットが違うと思うので、取り組み方も違うから。

○委員　　地域協でやっている中でも、各学校校区で、またその中でもリーダーされている方のキャラクターもまたみんな違いますし、それによって嫌やという人もいてるかもしれないし、その辺は考えていければ、多分うまくいけばすぐできるなと。またよろしくお願いいたします。

○委員　　私は本当に学校がオープンになるということはとてもいいことだと思っています。学校の先生方から期待されているというだけではなくて、地域の大人からも期待されているということを子どもたちが感じるということはとてもいいことだと思います。私自身、まだ具体的にどういう仕組みになっていくのかというイメージができない部分もあるんですけれども、ぜひやってみたい活動は、これは大阪市内の天満中学校がコミュニティ・スクールで土曜日に勉強会をされていて、希望者優先、希望する生徒だけ土曜日に学習会に来られていたんですけれども、そのボランティアとして大学の学生とか、あとコーディネートをされているＰＴＡの委員の方、非常にオーガナイズされていてすばらしいなと思いまして、こういうことができればいいなというふうに思いました。

○委員長　ありがとうございます。

○委員　マイスターのお話はすごく分かりやすくて、今までふわっとした感じだったのがちょっとすっきりしてきた感じがしました。ありがとうございました。うちの地域だとどうなるのかなとシミュレーションしながらお話を伺っていたんですけれども、やっぱり人材の部分が物すごくネックになるだろうなと思うのと、例えばさっきも言ったように地域協があるので、地域協がかなりしっかりいろんなことをやってくださっている現状がある中、この運営協議会というのをまた新たにつくり直すのか、地域協をベースにそのままいくのか、そこも議論が必要なのかなとすごく感じました。感想になりますけれども。

○委員　自分が思ったのは、ＰＴＡの役員のＯＢで今いらっしゃる方がこれでまた復活の芽があるなと、活躍してもらえる場ができる反面、コーディネーターと校長先生、各学校によって今後格差ができてくるおそれもあるので、その辺のところが難しいんじゃないかなと。

あと、先ほど皆さんおっしゃっていますけれども、地域協との色分け、地域協は今後どないなっていくんやという、そういう心配を、せっかく今までつくり上げたものがただ名前が変わるだけなのかとか、そういう心配をしました。以上です。

○委員長　では、お願いします。

○委員　みんな心配していただいて、一応地域協としては25年ほど続いている中で、多分同じように、今風にいう持続可能というのが多分スタート、立上げのときに相当子どものためという一言で非常に負担を強いている時代が長かったんですよ。それを今お話が出たようにウィン・ウィンの関係にするのにどうしたらええとなったときに、当てにされてありがとうと言うてもらえてちょっと気持ちようなるぐらいのやり方を子どもにも、手伝ってもらっている親御さんにもということで、さっきもお話が出ましたけれども、ＰＴＡさんと、ＰＴＡのＯＢと今地域協を通じてどう付き合っているというたら、そんなにあれやね、気遣うてへんね。近所のおっさんぐらいの感覚違うかな。そこらが多分学校の先生も、人質のない状態というんやけれども、子どもが学校に行っている間の付き合い方と子どもが卒業してからの学校の付き合いの仕方

で非常にラフな感じの付き合いは今させてもうています。

そういう中でいうと、さっき懸念してはるように、学校運営協議会をつくったら職員室が敵になるのかという不安を多分立上げの過程では思うと思うんですよ。私は地域協は残ったままで、学校運営協議会はそれのもう一皮包むような状態、豚まんのあんこがあったら皮の状態まで広げた状態が学校運営協議会のイメージかなという感じがしています。

ただ学校評議員をさせていただいていて、校長先生のお話を聞いて、その中でいろんなお話を聞く中でどれだけの守秘義務を意識しているかという話になると、多分、今日のお話にも出ましたけれども、学校運営協議員さんになっていただくと、教育委員会さんのほうからよろしく頼むわという部分と一緒に、内緒の話は内緒やでという縛りがかかったときに、多分それが重荷で受けたがれへん人もいてんちゃうかなという心配はしているんです。だから言わはるように会長やからあて職で言うたら限界があるので、そこの会から誰かよろしくぐらいで立ち上げるのが一つの流れかなという気はしています。

それと、これは今予想ですけれども、この学校運営協議会のシステム、文科省としてはどれぐらいのスパンで育てる気がありそう。例えば10年ぐらいはケツ割らんと追いかける。

○ＣＳマイスター　やと思います。

○委員　そこらが非常に松原市できちっと始めたときに文科省の言うこと、10年、ころころ変わって信用ないから、マイペースでいこうかという感じでいっている、ごめんね。あったので、今回この話が出たときに小学校でやってはるところもあり、中学校区でやろうかというところもありでスタンダードがばらばらでしょう、今の立上げの順に。５年とかのスパンで育つのを見守る余裕があるのかなと。

だから、先ほど単純に地域協をこの名前にくら替えしますわということを信用してないから、地域協は今までどおりマイペースでやらせてもうて、それで学校運営協議会というのにもシステムとしてはのらせてもらって両輪でいったらええかなとは思っています。そこらが多分言いにくい話やねんけれども、どこまで文科省の予想が当たるのかなというか。

○ＣＳマイスター　文科省も地域協議会をなくそうとは思っていなくて、うちも地域協議

会、私つくった、同じぐらいせなあかん人やったから、それも同じことを考えました、もう要らんねやろって。みんなに投げたれというぐらい思いました。何か新しいことを持ってきてということで思ったんですけれども、でも違うんやなということに気づくとうまく生かしていけるんです。地域協も長く伸びてきて、やることも充実してくるというか、より子どもに近くなれるし、今までは土日しかできなかったことが学校の中に入って、授業の中にも入れたりしてくるので、地域にいてるすごくたくさんの人財、人の財産の財と私はいつも書くんですけれども、人財を生かす場所が広がっていく。それによって今までやっている松原だったらフェスタとかされているところに、さっき言いましたけれども、ＰＴＡさんがいっぱい子どもを連れて参加してくれるとか、先生には、今までは結構動員的な感じで先生を５人呼んできてくれよみたいな感じでやっていたところも、先生は学校運営協議会ができて地域の方が学校にこれだけ来てくれている、きっと楽しそうやなという本当の部分を見る目が先生の中にも育ってくるんですね。なので、先生が行くからおまえらも一緒に行こうやみたいな感じで呼んで、地域活動のほうにも出てきてくれるというような成果は出てきているので、そこはウィン・ウィンの関係にはなっていくんかなとは思っています。

地域協をなくすものではないし、文科省もまだまだ続くと言うていますので、このマイスターも10年目になるので、私はまだ６年ですけれども、まだまだ先も考えてはるので。

○委員　多分さっき教えていただいたように、地域協の研修に先生に来ていただいて、ここ三、四年学校運営協議会の話をずっと、地域協としては研修しているんですね。その中で聞いていたら、大概のメンバーは、今の地域協の活動を続けていけばええやんという感覚で聞いていて、ただ今日の話の中で、対象になる委員さんに誰がなってもらうというときに、地域協の役員がイコールじゃないよと。そこから誰かが入り、学校が入り、それ以外の地域の人も入っている中にもうちょっと広がる印象やと思っています。そやから楽はさせてくれへんやろうな。ここにいてるメンバーで多分来年度、その学校運営協議会準備会までは巻き込まれるんのかなと思っているんやけれども、これ、先生、委員長としてお聞きしたいのは、これは３回、答申まで今日入れてやっ

て、諮問の結果の答申を出しますでしょう。その時点でこの会は一旦解散できますのん。

○事務局　このこれからの学校教育基本構想検討委員会は、諮問から答申までの間なので、一旦解散になります。

○委員　それで、心配しているのは、解散しました、それで各中学校区で準備会を設置しました、頑張ってねといったときの１年の中で７グループあるわけやから、進捗状況を点検せなあかんと思うんですよ。それはどの部署の誰がするということになるのかなと思っておって、ひょっとしたらこのメンバーに残ってもらわんと、いや、あそこ遅れているでとか、あそこ要らんことを言うとるでとか、違うことを言うてんでという進捗状況がどこかでみんなで話合いをもう一回寄ったらんとという時期が来るんちゃうかなと。私、本当にこれ答申出した時点で投げ出すんじゃないけれども、はい、よろしくで済めんかなという気はしているんです。

○委員長　今のご意見を受け止めて、その趣旨が生かせるような手だてを考えなあかんと委員長としては思いますけれども。

○委員　１年も帳尻合わへんと思う、７つが７つとも。やっぱり温度差もある中で松原として７つを同時に用意ドンとスタートしよう言っている限り、途中で進捗状況を見ててこ入れしたらんと、乗り遅れるところというのはやっぱり、ここのメンバーでまた寄ってもらう機会を残しておかないと、解散と言ってしまうとちょっと後しんどいんちゃうかなというのが意見です。すみません。よろしくお願いします。

○委員長　ありがとうございました。それは宿題ということでご検討いただくということで。

○委員　現在に至る松原市を振り返ったときに、中学生からおもてなしを受けていた小学生が中学生になっておもてなしをするようになって、今や小学生の保護者になられているという場面であったりだとか、地域の方と一緒に子どもたちがいろんな活動をしていた子どもたちが保護者になられたり、次の地域の方に、年配の方になられているぐらいの流れが松原にあったりだとか、あと本当に様々なＰＴＡ活動であったり、地域協の活動も、地域のお祭り的なフェスタにしても、学校教育的に思ってしまうキャリア教育の職場体験にして

も、全部ＰＴＡと地域協と学校が協働とか連携とかいうより、今は一体となってやっているのかなというふうなイメージで僕は思っているので、松原スタイルの今日お伺いしたような仕組みであったり、仕掛けが確立、構築できたらいいなという気持ちで聞かせてもらっていました。どうもありがとうございました。

○委員　今日、大谷さんのお話の中に、やっぱり我々、今日は校園長３人来ていますけれども、ずしっと来たのは、校長の思いをいかに高めるかなんやと、そんなふうにおっしゃられると、どう高まったかなと思いながら自分自身振り返っておったんですけれども、ただ高まるという意味では、自分のところの学校だとか子どもを今よりよくしたいという思いを持っているのは全員、どの校園長だって思っているわけで、そういう意味ではこの制度を利用しながら前に進めていける部分は具体的にあるだろうなと。

具体的な話をしますけれども、去年、今の学校に赴任したときに、春の１年生が学校になかなかなじめなかったり、朝来たときにお母さんと離れられなかったりだとか、泣いていたりだとかするところをフォローしていただくために、あるＮＰＯとの出会いがあって、ＮＰＯの方が玄関で迎えてくれたり、教室でおトイレと言えない子どもたちを支えてくれたりだとか、そういうことをずっとやっていただいたんですね。一月ぐらいずっと来ていただいて子どもたちが本当にスムーズに学校に来れるようになった後ぐらいで、やっぱり期限が来てしまうんですよね。期限が来る、その後に教室でどんなことが起こっているかというと、若い、ベテラン関係なくもっと支援をしてやりたい子どもたちが目の前にいてて、授業の声がこの子は届いているんかな、分かっているんかなと。でもそこで、例えばそういう地域人材の方がおられて、こうなんだよというような声がけをしてくれる、こうしたらいいんだよというようなことで安心できるような場面、言わば学習支援的なものがあったらいいなとか、いろんなことは今日の話を聞きながら思い浮かんでくるんですけれども、そういう意味では地域の方々がいろんな形で学校にさらに入っていただけることで学校が前に進める、そこのハンドルとブレーキを握っていかなあかんねんなということを感じさせられました。

もう一点だけ、人選というのはすごいポイントだなというふうに思っていま

して、土曜体験、今年はこの状況下でなかなかできないんですけれども、土曜体験をやったときにある企画をしたと。老人会で何人か集めてほしいなというときにキーとなる人が、先生、これ声かけといたるわと、集めとったるわみたいな声を出してくれたときに、非常に学校としてはありがたい。そのことが得意なのかどうなのか、こま回し得意なのかとか、分からないままではなくて、こっちから声かけとくから先生やっとくでみたいに言われると非常にありがたい。それが今日、さっき大島さんもおっしゃったけれども、コーディネーターの人選というのはとてもポイントになってくるのかなというようなことを感じながら聞かせていただきました。

先ほどの繰り返しになりますけれども、今よりもよりよい学校づくりをしていくためにいろんなことをチャレンジしていきたいなと、こんなことを思いながら聞かせていただきました。どうもありがとうございました。

以上でございます。

○委員　ありがとうございました。いろいろ勉強させていただきました。

私は幼稚園なんですけれども、本当にＰＴＡの方とかの一緒にやっていただいていていけているというところがすごくありまして、子どもも小さいのでお母さんたちに力を貸してもらって一緒に保育していくことでスムーズに進むことはすごくたくさんあったり、あと地域の方ももちろんそうなんですけれども、いろんな方の力をお借りしているなというのは思っているんですけれども、おっしゃった話の中で負担感というのを自己有用感に変えていかないといけないというところがすごく自分自身も心に刺さって、長谷川さんには来てくださっていますけれども、やっていたら楽しいとか、自己有用感につながるところもあるんですけれども、たくさん人材は絶対あるはずなんですけれども、それをどうやって人選もそうと思うんですけれども、どうやってやってみたいなみたいな感じの学校運営協議会というアピールというんですか、知らせていくのというのが難しいなと自分自身は思いながら聞かせていただきました。以上です。

○副委員長　ありがとうございます。

皆さんの話でもほぼ総括されていた感じがするので、特に出るところがあまりないような感じもするんですが、非常に当たり前のことを言ってしまうん

ですが、一番大事なのは恐らく学校と家庭、地域の回路がつながるということになるかなと。例えば学校で非常に難しい問題に向き合っていて課題はあるけれども、それをしっかりと専門職としての学校の先生方が整理して説明をしたり努力をしていたらそれが地域に伝わって、それだけの尊い仕事をしているから助けようというような、そういう回路というのをいかに成り立たせるかがすごく大事だと思うので、それでいくと、皆さん先ほどから言われたように松原市の場合というのは、違うレベルで地域協が機能していて、学校もそこにパートナーで入って学校の難しさを地域の課題として捉えて、その両者一体となった活動でクリアしてきたというところがあるから、ですから、そういう意味でその回路そもそもがつながっているというところが松原にはある。だから、学校運営協議会をどうするかという話もある種の難しさとともに出てくると思うんですが、それでいくと学校というのが具体的であり、公共性も強くて、また難しさに先生方は向き合っているものもあるから、そこをベースに制度として国としては多分制度をつくることで、具体として学校運営協議会や地域学校協働本部で解決をするというところをかませていったり、コーディネーターさんが校区におられれば、大阪府においてやっていたようにコーディネーターのネットワークをつくってみんなでまた育っていけるような基盤を持つことで、それでどの自治体においてもそういった回路がつながる状態をつくっていくのかなということになると思います。

ですから、松原は非常に回路がもともとできているというところがあるから、そうであるために難点な部分はあるとは思うんですが、ただそういった学校を具体とすることによって新たに活動のバリエーションが広がるという部分があるので、その実を、取っていかれるようにするといいかなというところが鍵になるのかなということを皆さんのお話を聞きながら聞かせていただきました。

あと、個人的に関心があるのは、先ほど申し上げたそういったコーディネーターさんのネットワークがつながったり、学校間のネットワークがつながって松原一体で高まるといったような場をつくれるということだったり、あるいは学校運営協議会というのを置く学校にどれだけ例えば裁量の幅を広げるという議論もあって、それが先ほど大谷様が言われていた追い風としての行

政というところも大事なところになると思います。ここのところも今後また検討の余地があるのかなというふうに思います。それもいろんなはめ方はあるんだけど、はめ方によってはさっき志水先生が言われたように、学校運営協議会の性格がある意味でまた決まってしまうところが出てきたりもするから、松原に向いたそういう形が何なのかということがまたそこの部分ももう少し詰められたらいいんじゃないかと思いました。

すみません、長くなりました。以上です。

○委員長　ありがとうございました。

皆さんおっしゃったように、私、最初にこの話を聞いたときに、校区をベースにしたコミュニティ・スクールは多分極めて松原的なそれ自体が発想で、普通考えない、それをベースに地域の活動があり、小中連携がありという、幼稚園も含めてあると思うんですね。だから皆さんおっしゃったように、今までをベースにして接続していくというのが大事なことで、トッピングに何を利かすかみたいなそんな発想なんやろうなと思います。

さっき自分の経験の話をしましたけれども、普通、学校運営協議会かな、一つの学校についてあるものでしょう、当たり前ですけれども、校区にしたらそれが３つの学校を１つの協議会で見るということになるので、そこのメンバーシップが誰がどんなぐらいの比率で入るんかとか、あと僕、コーディネーターさんも１人やったらしんどいんちゃうかなと思って複数制とか、そこの分担、Ａの人がＢの人にみたいなのも措置が必要になると思うし、全く今まで出ていない話でこの頃よく考えるんですけれども、学校教育というのは大人が子どもに何をできるんやと、社会教育も同じですけれども、でも今の時代を考えると、子どもの意見を尊重するというのは極めて大事なことで、協議会のメンバーに中学生が直接加わるというのはちょっと難しいかもしれんけれども、協議会の席に必ず子どもたちの意見とか、意向とか、要望とかが伝わるような会は必要なんじゃないかなと。全く今までと文脈の違う話ですけれども、それは個人的には提案させていただきたいなと思いました。

それでは、ちょっと時間を超過しましたけれども、これで今日の審議は終了させていただきます。

じゃ、事務局のほうに戻します。

○事務局　次回は、本日いただきましたご意見を踏まえまして答申案を作成してまいります。

次回、第２回につきましては２月16日の火曜日、また、第３回目につきましては３月23日の火曜日を予定しています。いずれも午後７時からを予定したいと存じますが、委員の皆様のご都合はいかがでしょうか。

会場につきましては、第２回は802会議室を予定しております。また後日案内をさせていただきます。

それでは、これをもちまして本日のこれからの学校教育基本構想検討委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。